

スポーツによるまちづくり ～市民が「おらがまち」に誇りを持つために～

Making Town By Sports

1K04B171-3

萩迫 友弘

指導教員

主査 宮内孝知先生

副査 武藤泰明先生

本研究の動機・目的

本研究に取り組んだ動機は、都市においてコミュニティが崩壊しているという問題意識を持ったことにある。さらに都市におけるコミュニティの再構築にスポーツは役立つか、またスポーツによるまちづくりの可能性について探るためであった。

コミュニティ形成やまちづくりにつなげていくために、スポーツが文化となり、生活の一部として浸透することができるかという視点から考えた。スポーツが生活の一部となることにより、普段生活しているまちに対する影響も出てくる。自分たちの暮らすまちでのスポーツ活動が盛んになることで、まちに対する誇りや愛着という感情が生まれ、そのまちに住んでいて良かったと思うようになるであろう。

研究方法

JリーグやNFLのスポーツチームの地域活動を手がかりに研究した。実践例ではJリーグチームの鹿島アントラーズのホームタウンである鹿島市、川崎フロンターレのホームタウンである川崎市のまちづくりを参考にした。

それらを参考にまちを活性化させるためのまちづくり、またスポーツ人口を増やしていくために、スポーツチーム、そして市民ができることは何かということを探っていった。

考察

スポーツによるまちづくりには、スポーツを生活していくための文化の一つとして意識していくことが重要である。より人間らしく生きるために文化が必要なように、スポーツもその一部となり、人間らしく生きるための重要な文化の一つと考える。

またスポーツにはコミュニケーション機能があり、性、世代、地域を越えて、また国をも超えて人々を交流させる。それにより崩壊したコミュニティを再構築する機能もある。その機能によってまちづくりを行っていくことも可能である。

またJリーグなどのプロスポーツチームは、そのコミュニティ形成の機能を用いて地域密着型の運営を行っている。スポーツ活動などの地域活動を行うことによってコミュニティを形成し、地域住民の理解を得て、支援してもらおう。そのようにして収益性の安定を図る。

しかしNFLの場合、収益性の安定だけではなく、自らを社会の公共財と考え、地域社会の問題を解決することを目指している。そういった地域貢献活動によってNFLのブランド価値を高め、地域住民からのより大きな支持を得ることに成功している。

スポーツチームは注目度が高く、地域貢献活動など社会のためになる活動を行えば、その活動に関し

ても注目してもらえる。そしてメディアが動いたり、地域住民が共感して支援してくれたり、周りを巻き込んでいくことができる。その動きがスポーツによるまちづくりにつながっていく。

まちづくりに関しては、アドバルーン型と草の根型という二つの考え方がある。アドバルーン型とは、プロなどトップチームがシンボルとなってまちづくりを行うことである。インパクトがあり、目標や計画も立てやすいが、アドバルーンがなくなるというリスクもあり、頼りすぎるのもよくない。

一方の草の根型は、健康や地域のコミュニティ活性化を考えた、人々の生活に密接したものである。市民の生活に密接したものであるが、効果が表れるまでに時間がかかり、地道な取り組みである。この草の根型活動をコミュニティビジネスの概念で考える。コミュニティビジネスとは、一定の地域において市民が中心となり、地域社会の問題を解決するためにビジネスの手法を使って地域社会に貢献するためのものである。草の根活動は地道な取り組みであるが、地域社会に貢献する可能性を秘めている。

このコミュニティビジネスをスポーツで考えると、総合型地域スポーツクラブである。多様なニーズに応えることができ、市民が中心となって地域に貢献するような活動を行える総合型地域スポーツクラブは、まさにコミュニティビジネスの概念と似ている。

結論

これまで考察してきたことを踏まえ、スポーツによるまちづくりの考えとして、レッズランドというアドバルーン型と草の根型活動を組み合わせた施策を提案する。浦和レッズというアドバルーンが中心となり、レッズランドという草の根型の活動を行う。アドバルーン型活動と草の根型活動が協力し合うことで、相互作用があり、共に発展していくことにつながる。

ただしサッカーなど一つの種目にこだわるのではなく、スポーツ界全体、そしてスポーツ文化の発展を考えることが重要である。様々な種目のスポーツチームがそれぞれ活動するのではなく、協力し合い、共に草の根型活動である総合型のスポーツクラブを作り上げていく。そうすることで、より多様なニーズに応えられるスポーツクラブが生まれる。

また、その総合型のスポーツクラブをスポーツチームに頼るのではなく、市民が自ら作り上げていくという感覚を持つことも重要である。スポーツチームや市民が一体となってクラブ作りを行う。そのようなスポーツクラブができることで市民が自らのまちに愛着を持ち、まちを誇りに思うようになる。市民がそういった感情を抱くことでまちの活性化、そしてまちづくりにつながっていく。